

# 「伊那谷 夏の体験交流企画」でリニア新幹線問題を考えた

7月5日（土）、6日（日）、昨年9月に引き続き（CAN10月号掲載）長野県飯島町の「アグリネーチャーいいじま」をベース拠点として、18名の参加で、「伊那谷 夏の体験交流企画」を開催した。初日の5日、大鹿村のリニア新幹線工事予定地の視察を行い、現地にとってのリニア新幹線問題について地元の皆さんと交流した。

リニアについて一般的には、経済性、電力大量消費、電磁波の人体への影響などが問題にされることが多いが、実際にルートとなる現場を見て回るといろいろな問題があり、それに対して、事業者のJR東海はアリバイ的に説明会を開催したものの。地元住民から出された質問に対して、きちんと回答していないという問題が分かった。

下の図が現地視察場所。大鹿村と飯島町主体。国土地理院 1/20 万図使用。



「リニアが土砂災害を増やすことになるのではないか」が、大鹿村住民にとっての心配事



地元の地質学者の松島信幸さんに案内いただいて、マイクロバスで大鹿村のリニア新幹線工事予定地を5時間かけて視察した。松島さんは子どもの頃から、南アルプスや中央アルプスの山々を歩いて回ったとのことで、伊那谷の地質について詳しい。マイクロバスは天竜川の支川の小渋川を遡って、リニア新幹線が通るといいう大鹿村へ入った。大鹿村は人口1200人ほどだが、以外にもノルウェーやイギリスから自然を求めて移住して来た外国人を含むIターンの新住民が多いという話を聞いて驚いた。大鹿村は斜面がきついので、集落は山稜沿いか、溪流出口にできる三角州跡地の緩傾

斜地にあるとのことで、道は狭く、落石の危険も大きく、生活道路の確保が大変だそうで、落石事故で人が死ぬ度に、事故があった場所にトンネルができていったそうで、そんなトンネルがいくつもあった。

大鹿村は中央構造線造線活動により地質がぜい弱で、昭和 36 年には大西山山体崩壊という大災害を受け、多数の住民が犠牲となり、村が完全孤立状態になったため、外部への救援要請は山越や発電水路トンネルを抜けるといった決死的方法で行われたという。その崩壊土砂堆積跡地は大西山公園となっていた。



大西山公園で、地元産材料のおいしい弁当で昼食。昼食場所は山体崩壊斜面と慰霊の観音像に見下ろされていた。

平和な現在でも土砂流出は続き、公園前面を流れる小渋川ではしっかり砂防工事が行われていた。しかし、下流の小渋ダム貯水池には土砂が計画以上に溜まり、貯水池からダム下流へ土砂を直接流し出すための「排砂トンネル」が建設中だった。



### こんなところにリニアのトンネル工事！？

リニアは大部分がトンネルであることは周知のことであるが、何故かこの山の中の釜沢地区でいったん地表に顔を出す。

この地区での主な問題は...

- ①そのトンネル工事で山を荒らすため、土砂災害リスクが高まるのではないかな。
- ②工事用車両で狭い生活道路の通行が妨げられるのではないかな。

③掘削土の置き場について、崩れないか、鉄や銅を含む地質だが重金属（掘削岩盤由来）が流出し下流を汚染するのではないかな。

④地下水脈が変わって生活用水に支障が出るのではないかな。

というまさに生活に直結した心配だ。

これらの問題について、JR東海が開いた説明会では、納得のいく説明はなかったという。

制度的には国土交通省の認可を得てから事業化するのだから、前述の地元の心配も含め、その前の環境アセスメントがしっかり行われるべきだ。（... 環境アセスメントの問題は後述する）

この地区の地形の厳しさはハンパなものではない。特にトンネル出口側は流れ盤（地層が落ちやすい）構造で、急峻で崩壊地もみられる。現場進入路を含め大変な難工事になると思われる。

現地では蛇紋岩という風化しやすい地質のために、斜面崩壊、大量の土砂流出、砂防施設設置が繰り返されている。



### 蛇紋岩って？～ウィキペディアより

かんらん岩などの超塩基性岩類が水と反応し、蛇紋岩化作用(もしくは蛇紋石化作用)を受けることで生成すると考えられている。蛇紋石化作用は主に超塩基性岩類中のカンラン石で起こり、カンラン石と水から蛇紋石と磁鉄鉱が生成される反応で表される。蛇紋岩化作用の程度は岩体により様々で、作用の弱いものは原岩を構成する鉱物が多く残り、作用の強いものはそのほとんどが蛇紋石化している。

蛇紋岩は風化作用を受けやすく、もろくて崩れやすい性質がある。そのため、蛇紋岩で形成された山岳(例えば越後山脈の谷川岳や至仏山)などでは、滑落事故が起こりやすい。岩石の表面は、スメクタイトなどの粘土鉱物を含み平滑状となっていることが多く、断層などの滑り面には強い鏡のような光沢(鏡面反射)が形成されることもある。

クロム、石綿、ニッケルなど鉱物資源を内包していることが多く、産出地においては鉱業開発が進められる場合もある。また、蛇紋岩自体も加工されて肥料として用いられる。



現地説明の様子。幸いに本格的な雨に合わずにすんだ。写真の雲に隠れた背後の山は赤石山脈で、その向こうは大井川流域（静岡県）。



### 環境アセスメントの制度的欠陥

大鹿村視察の後、アグリネーチャーに戻って、元名城大学教授の宇佐美大司さんからリニア新幹線に関する環境アセスメントについて説明を受けた。

そもそもの問題として、アセスメントを行うのが事業者であることが指摘された。公正な評価のためには、事業者はデータ提供、評価は第3者機関とするなど客観性を持たせた制度であるべきだが、日本の場合、アセスメントを行うのが事業者であるということが制度的欠陥である。

大鹿村では、事業当事者のJR東海が行った評価結果について、JR東海から住民が聞くという形であり、JRが決めた土俵の範囲でしかデータ提供も説明もなかったそうだ。

またリニア新幹線計画についていえば、事後調査計画が不備であり、建設後の調査は非常に限られた項目になるそう。例えば地元の心配する前述の項目では、④くらいしか調査は行われないことになっている。



夕食前の時間だが、真剣に話を聴く参加者の皆さん。



質疑では、事業を止める手段はないのか？問題認識を持つ他の沿線住民との連携はどうしたらいいのか？など質問があった。

市民が事業を止めようとする時に、市民代表である地元議会が賛成の方向の場合、最後の手段として裁判を起こすというアイデアはありうるが、訴えの資格面（民事なら、訴える者にどのような被害が想定され、事業差し止め以外に回避の方法がないことの証明が必要）で事実上困難とのこと。

連携については既に「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」（リニアを問う愛知市民ネットなど9団体で構成）が活動中という情報提供がされた。

6月に評価書に対する環境大臣の意見が公表された。意見書では…、

- ①走行時の省エネを徹底し、再生可能エネルギーの使用により、温室効果ガスを極力抑制すること
- ②水系への影響の回避
- ③発生残土の抑制・天然由来の重金属による環境汚染の回避
- ④工事が長期にわたることから、適切な事後調査の実施
- ⑤各県ごとに求めている希少生物の保全

に関して言及している。この環境大臣の意見を受けて、国土交通大臣が近々意見をだすことになるが、どうなるか当面注視する必要がある。

### お楽しみ企画は…

と、硬い話が続いたが、交流体験企画はもちろんこんな硬い内容ばかりではなかった。

初日5日の夕方、飯島町のフルーツファームよねやまで「サクランボ&ブルーベリー狩り」を楽しんだ。思い切りサクランボを食べて、目の色が輝く参加者のみなさん…。



また、6日午前中には、長野県山岳会ガイドの知久平彰さんに案内していただいて、アグリネーチャー周辺の山里を散策した。



飯島町は中央アルプスに端を発する川で運ばれた土砂が堆積してできた三角州だが、アグリネーチャーが建っている場所は、中央アルプスの尾根筋の麓に位置し、アグリネーチャーの入口辺りのの庭にある大きな石は、それが浸食によって露出したものだそうだ。ア



グリネーチャーの南側を流れる与田切川の「よた」は語源は与太者の与太からきており、ならず者のように暴れる暴れ川という意味だということで、与田切川の北側の急斜面には、土石流などで上流から運ばれてきた巨岩がところどころで露出していた。

知久平さんは木や野草、野鳥の知識も豊富で、質問すると丁寧に説明していただき、楽しい時間を過ごすことができた。

また、お昼は地元の蕎麦打ち名人が打った蕎麦を賞味した。午前中身体を動かした性か、用意した蕎麦はあっという間になくなった。長野県産の蕎麦の種子は

すべて飯島町で栽培しているそうで、蕎麦の本場中の本場で食べた蕎麦は本当に美味しかった。

最後に今回の体験交流企画に参加した全員で写真を撮った。9月13日(土)、14日(日)には、「村と町の暮らしと文化を結ぶ秋の体験交流企画」を行うので、またまたお楽しみに...!!



(事務局 山本 & 外山)